



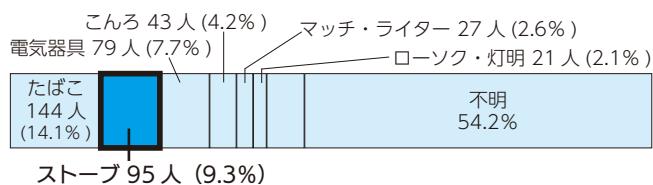
ストーブ火災に注意！

ストーブ火災は命に関わるケースが多い……！？

消防庁が作成している「令和6年版 消防白書」によると、全国の住宅火災の発火源別死者数において「ストーブ」が2番目に死者数の多い発火源であるとの結果が出ています。さらに、ストーブの種類ごとに分けると、電気ストーブ、石油ストーブ、ガスストーブの順で、死者数が多いとの結果も出ています。

ストーブ火災の原因のほとんどは使用者の不注意によるものです。次の4つのポイントに注意し火災予防に心がけましょう。

【住宅火災の発火源別死者数】



【発火源別死者数「ストーブ」の内訳】



ストーブ火災を予防する4つのポイント

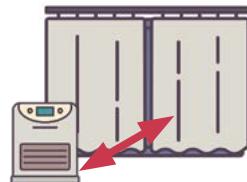
①燃えやすいものを近くに置かない

ストーブの上に洗濯物を干したり、布団や毛布を使いながら近くでストーブに当たるのはやめましょう。



②カーテンの近くに設置しない

カーテンは燃えやすいのに加え、灯油ストーブなどでは吸気口に張り付き、うまく燃焼されない場合もあるため、離れた場所に設置しましょう。



③就寝時にはスイッチを切る

寝ている間の火災は気づきにくいため、避難や消火が遅れやすいです。寝る前には必ずストーブのスイッチを切りましょう。起きるタイミングで部屋を暖めておきたい場合は、スイッチオンタイマーを活用するなどの工夫をしてみましょう。

④スプレー缶などをストーブの上に置いたり、近くで使用しない

スプレー缶には、「高温になる場所を避けること」という表示がされており、缶の内部が高温になるとガスが膨張し、破裂するおそれがあります。また、そこから漏れたガスに引火し、火災につながるケースも少なくはありません。

ストーブの種類別 火災予防のポイント

電気ストーブ (ハロゲンヒーターなど)

電気ストーブは灯油やガスなどの燃料を使用しないため、家庭内で火を使用している意識が薄れがちです。燃料を使用していくとも、熱源から紙や布に引火し火災につながる恐れがあるのは他のストーブと同じです。「ストーブ火災を予防する4つのポイント」を徹底しましょう。

灯油ストーブ

給油は必ずストーブの火を完全に消してから行い、給油後は灯油タンクの蓋がしっかりと閉まっているか確認しましょう。灯油をこぼしてしまった場合は、引火につながりますので、必ず拭き取りましょう。また、古い灯油は器具の不具合が生じる恐れがあるため使わないでください。

ガスストーブ

カセットボンベを使用するストーブは、ストーブ近くなどの高温多湿になる場所でのボンベの保管を避け、使用後のカセットボンベは注意書きのとおりにガス抜きをしましょう。ガスコンセントにつなげて使うストーブは、ホースの劣化を確認し、ひび割れなどがあれば交換しましょう。